

## 新春挨拶

### 新年のご挨拶

自由民主党参議院  
比例区支部長  
しげもとまもる



新年、あけましておめでとうございます。旧年中は、皆様に格別のご支援を賜り、心より感謝申し上げます。本年も引き続き、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は、令和6年能登半島地震という衝撃的な幕開けとなりました。改めまして、被災地にて命を落とされた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害を受けた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

この地震においては、能登半島の道路網に大きな被害が生じたことから、港湾の迅速な機能回復が求められ、作業船が多岐にわたる復旧作業で重要な役割を果たしました。航路・泊地の障害物撤去、地盤の隆起による港内の浚渫、護岸の応急復旧、緊急物資輸送など、数々の対応が作業船によって実施されました。これらの活動に尽力された皆様に、深く敬意を表します。東日本大震災に続き、作業船が復旧・復興に不可欠な存在であることを、改めて認識することとなりました。

しかしながら、作業船を取り巻く状況は依然として厳しいものがあります。国土交通省の資料によれば、作業船の保有台数はここ20年間で約半減しており、2001年の10,550隻から2021年には5,657隻と大幅に減少しています。さらに、作業船の建造数も1996年の324隻をピークに減少が続き、ここ10年は、年平均約70隻にとどまるという深刻な状況です。このままでは、平時における港湾・空港整備事業や災害時の復旧・復興を支える作業船の不足が懸念されます。

私はこの1年半、全国各地の現場や企業を訪問し、多くの方々からご意見を伺ってまいりました。中でも、作業船に関連して、「維持費用が高額で負担が大きい」「老朽化が進んでいるが新造が難しい」といった切実な声を数多く耳にしました。作業船は、企業経営の基盤であるだけでなく、港湾事業の生産性向上や災害時の緊急活動を考えるうえで、地域経済や暮らしを支える重要なインフラです。

貴協会におかれましては、作業船の生産性向上や脱炭素、環境問題への対応といった課題に積極的に取り組み、関連技術の発展に寄与されてきました。そのご努力に、深く敬意を表します。私自身も、作業船が安定的に保有される仕組みを構築すべく、港湾空港整備予算の確保、必要な制度整備など政治の場から全力で取り組んでまいります。

今年は、第27回参議院議員通常選挙の年でもあります。昨年7月、自由民主党より交通運輸・観光分野の職域を代表する比例代表候補の公認候補予定者に決定いただきました。貴協会におかれましては、ご推薦を賜り心より御礼申し上げます。これまでの行政経験や衆議院議員としての実績を活かし、交通運輸・観光業界の成長と、それを支えるインフラ整備に全力を尽くしてまいります。全国の皆様からのご支援を心よりお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が皆様にとって良い一年となりますよう、また、一般社団法人日本作業船協会のさらなるご発展をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。